

第2回 リカレント教育のためのピアノ研修会によせて

宇都宮短期大学 学長 須賀 英之



本学では、創立50周年記念事業の一環として「リカレント研修会」を発足いたしました。好評を博した第1回赤松林太郎先生（本年2月11日）に続き、第2回は同じく本学客員教授今井顕先生をお招きしました。

先生は内外での演奏・教育の一方で、バッハやモーツァルトなどの演奏法と解釈の研究を精力的に手掛けられています。最近では、「ブルグミュラー25の練習曲」の校訂・解説（東音企画）を上梓されました。

本日は、今井先生がヨーロッパを中心とした40年の演奏活動に基づき、本学のリカレント研修会に相応しい選曲と解説をお願いしました。皆さまには、欧州の風を感じつつ、定評ある音楽トークを堪能して頂けましたら幸いです。



PROFILE



今井 顕

国立音楽大学大学院教授、ウィーン国立音楽大学終身名誉教授、宇都宮短期大学客員教授、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会評議員。

ウィーン国立音楽大学に16歳で入学。8年間の課程をわずか3年で修了し、早くも19歳の時に最優秀の成績で卒業。数々の国際コンクールで頭角をあらわし、コンサートピアニストとして国際的な活動を開始する。その後ウィーン国立音楽大学ピアノ専攻科における日本人初の指導者として抜擢され、数多くのピアニストを育成。通算24年にもおよぶヨーロッパ滞在中の音楽分野における業績と尽力とに対し、オーストリア政府より名誉教授の終身称号を授与される。楽譜、書籍などの出版物も数多く、国際コンクールの審査員として招聘されるなど、日本の誇る国際派ピアニストとして内外で高い評価を受けている。

演奏会 & レクチャー

なぜモーツァルトではなく、ハイドンなのか？

なぜショパンではなく、シューベルトなのか？

～ 演奏における 個性を考える ～

PROGRAM

J. Haydn ハイドン



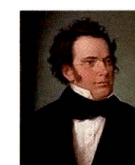
(1737～1806)

「皇帝」の主題による変奏曲
nach Hob.III:77 II

ソナタ 八短調 Hob.XVI:20

～ 休憩 ～

F. Schubert シューベルト



(1797～1828)

ソナタ 第21番 変ロ長調 D960より
第1楽章・第2楽章

(曲目は予告と一部変更しています)